

虚子記念文学館投句特選句・令和七年七月

稲畑廣太郎 選

心音をつき抜けてゆく揚花火
神奈川 進藤剛至

裏返る雲の一角朝曇
岡山 石井宏幸

降り注ぐ日差し七色梅雨明けぬ
兵庫 高野さち

黙祷の解けて掬へし虹もあり
兵庫 惠島祥一朗

夏草にちらとも見えず芦屋川
愛知 中野ひろみ

あかつきの最初のひかり蓮の花
兵庫 伊集院秀樹

さういへば始りはこのソーダ水
大阪 北上美佐子

明易の館へ一番乗りであり
香川 三宅久美子

登山者のちひさき影の峠越ゆ
京都 前 悦子

ちよこりんと座る人形熱帯夜
滋賀 太田 慈

（青少年）

入選句・令和七年七月

枇杷剥いて暫し中断痴話喧嘩	埼玉	小田毬藻	サーフボード並べ土用の波猛る	石川	白根寿子
からつばを確かめにゆく帰省かな	大阪	押見げばげば	虚子の句を書写する朝や青簾	兵庫	谷本逸歩
星涼し湯氣にたゆとう湯宿の灯	東京	清水ぼつぽ	凌霄花のらりくらりと風躲す	奈良	山口廣世
朱夏の飛驒田空の仏皆笑う	神奈川	斉藤苑子	窓越えて来たる守宮に説教す	三重	池本準一
夏雲の下で継ぐべき記憶あり	千葉	鹿野川小舟	大川にバス滑り入り船遊	大阪	勝山禮子
春光や一人になつて残るもの	富山	三河三可	降り出して後悔しきり白き靴	大阪	若林友子
特上の鰻へ客のまなこかな	茨城	杉山 満	美容院の朝の金魚に挨拶す	大阪	立入宮子
農を継ぐ若き力や青葡萄	京都	西村やすし	白靴や気持は今も二十代	兵庫	宮本露子
律儀なるまでの青なり青葡萄	兵庫	池田文子	一碗の濃茶涼しき練り加減	鳥取	前田 千
林泉の一隅埋め半夏生	大阪	河辺さち子	夏木立映すダム湖の静寂かな	大阪	杉山千恵子
小暗さを揺らす水音半夏生	大阪	須知香代子	辛口の句評飛び交ふビールかな	兵庫	小柴智子
虚子館に亡き師と仰ぐ合歓の花	兵庫	黒田千賀子	おつとつと零さぬやうにビール飲む	兵庫	上岡あきら
七夕や二年振りなる日本一	兵庫	森岡喜恵子	梅雨明て松片蔭に風の道	兵庫	伊東伸子
老鶯の声より今日の始まりし	三重	松村咲子	雨しとしと形代草の白ふやす	兵庫	細田清子
白靴のタラップのぼり船の旅	奈良	堀田建夫	湖風に遊び船遊に興ず	兵庫	山田翔太
不穏なる赤き色して夏の月	兵庫	日下富貴子	幻の合歓の花見ゆ館の空	兵庫	川村ひろみ
遠来の友と鴨川川床を訪ふ	滋賀	尾崎恵子	三瓶への思ひ深めし合歓の花	兵庫	小林昌子
空までもその色で揺れ椎の花	兵庫	吉田知子	月一度訪ふ虚子館や露涼し	兵庫	平田 恵
雨催ひ憂ひの庭の草を引く	三重	中島庸子	街並の途切万緑森の中	三重	前出美千子
合歓の花地に落ち池に落つ静寂	奈良	堀田ますみ	墓シラノの心秘めてをり	兵庫	槌橋眞美
チャンアンの峡うねりゆく船遊	大阪	ふじもと言果	ビール乾すベルギー館の屋上に	兵庫	山之口倫子
夏館影を影とす記念館	大阪	谷本房子	合歓の花天女来迎とぞ覚ゆ	大阪	田邊育子
一匹の尺蠖袖を計るかに	石川	辰巳昌彦	滝太し落下のしぶき届きをり	兵庫	小川孝子
日輪に刺を研ぎ上げ夏薊	大阪	多田羅紀子	万博を海から眺め船遊	兵庫	長安悦子
	大阪	多田羅紀子	山頂の風が白靴輝かせ	三重	前出公子

一粒で抜けし疲れや干小梅	兵庫	吉村玲子	蟬しぐれ一斉に止む庭の黙	兵庫	二瓶美奈子
白靴の駆け出す空と海の青	兵庫	小林志乃	ブロックの富岳息づく風死せる	兵庫	風待ラテ
月涼し世代交代せし宴	兵庫	深尾真理子	東屋の人の類いへ蟻の列	静岡	いたまき忬
桐箱は買はずパックのさくらんぼ	石川	辰巳葉流	百日紅道から道へ咲いてゐる	三重	水越晴子
白もまた燃ゆる色なり夾竹桃	兵庫	岸川佐江	思ひ出のひとつの匂ひ草いきれ	兵庫	山口弘子
夏のれん町家の奥は謎めいて	京都	山崎貴子	幹に爪立てて空蟬夜が白む	兵庫	道中義臣
師の庭に咲けば涼しやどの花も	大阪	林 曜子	浜までの急ぐ細道草いきれ	兵庫	山岸正子
一と刷毛のお色直しや合歡の花	兵庫	奥田好子	弓取りに拍手喝采団扇ふる	兵庫	高市敦之
朝顔市印半纏よく動く	兵庫	辻 桂湖	滝落つる奈落の底といふ刹那	兵庫	岩水ひとみ
透き通る水に山百合生け込みぬ	兵庫	足立朱麻	ひるがへる水鱧ひかる先斗町	兵庫	町田葦たか
故郷の夜市のニュース七月尽	兵庫	松本 敬	二百段登り寺から夏の海	兵庫	福田光博
隠し持つ別のやさしき扇子風	大阪	棕本望生	釉薬の溶けた手触り長崎忌	滋賀	近江堇花
光ごと玉虫掬ふ母卒寿	神奈川	小林 心	鈴虫のコロコロと子の眠る	熊本	貴田雄介
サイダーさえかぶりたくなる気温かな愛知		海神瑠珂	氷菓買ふ新幹線は富士通過	愛媛	星月彩也華
晩夏光親しきもののみな逝きし	大阪	富永武司	霊山と云へど高野の暑さかな	和歌山	中島紀生
客人に父が振る舞ふ膾かな	大阪	森重深鶴	汗拭ひ信号待ちぬ渋谷午後二時	東京	宮村土々
虚子選に入選真夏の夜の夢	京都	杉森大介	体温と五感夜店の熱に酔ひ	滋賀	太田怒忘
古書を繰る祖父の筆跡紙魚あまた	兵庫	松本 守	秋水やゲルのインクの遺言書	奈良	豚々舎休庵
入門の経緯涼しく語らるる	兵庫	玉手のり子	蛍の夜つかまれし手にある微熱	兵庫	矢車星風
俳磚の白が西日を弾きたる	兵庫	藤井啓子	階段の手すりの熱さ雲の峰	兵庫	太平楽太郎
夕立きて一安心といふことも	兵庫	永沢達明	釣りし鮎真一文字に口結び	神奈川	金子三奈乃
早咲きの白萩に逢ふ虚子の館	兵庫	柄川武子	小さき蟻大きな蟻に行きあへり	兵庫	キートスばんじょうし
乾盃や麦酒の泡の消えぬ間に	兵庫	高橋純子			
噴水の底にふらつく一円玉	埼玉	吉田春代			
夜会用荷に詰め白靴の船路	兵庫	西村みどり			